

深海 文

私の作品は制作行程の中で、形と色、重さと軽さ、簡素と混沌を詩的な視点から制作しています。

一般的に価値の低いモノを、あえて作品に使用する意図は、素材そのものの価値観にハイライトを当てる行為であり、私の作品においては、日々の生活の中に或る、あえて見直す事の少ないモノの存在に対する興味のあらわれかもしれません。パレットの中のシミや無加工のリネン（生地）を作品にとりいれている一つの理由はそこから来ています。

制作過程において、その瞬間にキャンバスやスペースに何があるかに反応するように心がけています。なので、作品は完成するまでたくさんの可能性を含んでおり、観客は私とその作品との会話の記録を作品として見る事になります。

今回の展示においていくつか IPMU の講義の記録を拝見しました。私は、理解不可能な数式や宇宙の仕組みに強く惹かれたのと同時に、講師の方々にも魅力を感じました。彼らが話す時の眼は、少年のように輝き、心から楽しんでいる事がとても伝わってきました。アートとサイエンスは一見、両極端な分野のように見えますが、好奇心、ひらめきは、アーティストや他のクリエイターに対しても共通する言語なのではないでしょうか。

2006年 ロンドン芸術大学修了

2010年 グループ展 Half Twisted Strip ギャラリー・サオアンドトモ ベルリン

2009年 Reviving isolation パーマネント・ギャラリー ブライトン

2007年 グループ展 00' Nature, Contemporary Art Projects ロンドン

2007年 グループ展 How we are maybe Late at Tate, テイトブリテン ロンドン

2006年 グループ展 S u s a k e x p o, S u s a k , クロアチア

2003年 De b u t e ギャラリーアートスペース 東京

E-mail: ayafukami@hotmail.com

三宅 由梨

存在が個を成す時そこには必ず境界が横たわっています。物体としての私たちには極限があるように「見え」ます。しかし私たちの持つ物体としての極限は私たちを縛り付けるものではありません。むしろその逆といえます。

例えば皮膚。私と他者を分けるもの。この境界は孤立を生み出すものではなく、交歓の場を私たちが作り上げるために必要なもの。物語は常に交歓の場でのみ紡ぎだされます。

例えば唇。それは私たちの内側への入り口です。気に入ったものは舐めとり、味わい楽しむことで身体の内側へとそれを受容し、気に入らなければ吐き出すか嘔みついたりして攻撃する。他を遮断し、断絶を生みます。唇は私たちが生まれてすぐに母親の乳房と結んだはずの最も根源的な交流の場であり、境界の持つ可動性について考える際にとっても有効なモチーフといえます。

私の作品は語り部です。境界と境界が互いに交流し、時には衝突しながら形を変え、何度でも鮮やかに生まれ変わる一連のドラマの。同時に語り部は、聞き手と語り部、そして作り手の間に新たな交歓の場を生み出すというもう一つのとても重要な役割を担っています。語られた物語は味わい楽しんでもらえることも あれば吐き出されたり嘔みつかれたりすることもあります。それはそのまま新たな物語となります。作り手である私はそこで生まれた物語をまた語り部に語らせる必要があります。物語は永遠に終わることがなく、その永遠性の中にこそ私たちの持つ境界の謎が隠されているのではないのでしょうか。

2007年 ロンドン大学芸術大学卒

2009年 グループ展 The Beauty,or the Beast? ギャラリーQ 東京

2008年 グループ展 The Beauty,or the Beast? ハウス・ギャラリーロンドン

2007年 グループ展ロンドン芸術大学卒業展 ロンドン

E-mail: yuricopora@yahoo.co.jp

デイヴィッド・プライス

私の作品は事物のギャップに関わっています。つまり彫刻とそれをフィルムや写真におさめたものの見た目、抽象的なイメージとタイトル、あるいは言葉と意味といったもの間に存在するギャップです。私は現代の潮流とは距離がある、例えばスーパー 8 や 16 ミリフィルムといったより古いメディアを用いることが好きです。今回の作品『スペクトル・エヴ イデンス』ではオフセットのリトグラフ版画を用いています。ギャップを扱う目的は、作品がギャラリーに新たな空間、つまりミステリーや疑いの空間を生み出すからです。

私は博士課程の最終学年に在籍しており、アートと虚構の関係について、芸術作品の展示空間のための文脈として文章を書くことの可能性について探求しつつ、研究しています。

2010 年 マンチェスター大学博士課程在学

2009 年 グループ展 Session_4_WORDS アム・ヌデン・ダ ロンドン

グループ展工業製品の芸術的実践へのインパクト リバプール

グループ展 Session_2_FLAGS, アム・ヌデン・ダ ロンドン

グループ展 Reviving Isolation パーマネント・ギャラリー

2008 年 Godalming Hundred,, ゴダルミン美術館, ゴダルミン

グループ展 Art of Sound, Sound of Art ウィットワース・ギャラリー マン
チェスター

グループ展 Modern Times オールイヤーラウンドクラブ マンチェスター

グループ展 Outside Context Problem スカリツァー通り ベルリン

2008年 グループ展 Transition ホルデン・ギャラリー マンチェスター

グループ展 School of Art ヘルシンキアカデミーオブファインアート フ
インランド

E-mail:davidprice39@hotmail.com

坪井 あや

自分の”現実感”を謎ということにしています。主にテキストと日々撮影している画像をてがかりに考察を進めています。自分の限界を超えることを目的として、不定期に展示という形に構成し、公開してコメントを頂くという活動を「谷中ホテル」というプロジェクトとして行っています。

オブジェは、木片が自重で調和する様、日々触れているものの特定の様、絵画の代替としてでも、情報伝達としてでもない表面としての写真を、実験的に組み合わせてみる中で、特徴を捉えようとしたものです。2006年に制作公開。

映像は、都市生活の中での基本構造としてあるホームや橋、道路、自然物としてある木や海、ものの日々手で触れて構造が変わる様を、実験的に組み合わせてみる中で特徴を捉えようとしたものです。モニタを2つ直に地面においています。画面に集中したり、空間の中でみたり自由にご覧ください。今回初公開となります。

2004年 ロンドン芸術大学 卒業

2009年 Release #003 Sketch #002, 谷中ホテル, 東京

グループ展 谷中芸工展 東京

2008年 Study #004 Release #002 Sketch #001 谷中ホテル 東京

2007年 study #003 Release #001 谷中ホテル 東京

グループ展 谷中芸工展 東京

2006年 Study #002 Study #001 谷中ホテル 東京

形を記録すると, 上野御徒町駅 東京

グループ展 Ongoing vol.05 BankART 横浜

グループ展 谷中芸工展 東京

2005年 舞台と空間のワークショップ こまばアゴラ劇場 東京

グループ展 Ongoing vol.04 BankART 横浜

E-mail:info@ unformable.com

八巻豊

この世の中に存在している原始的な記憶を思い起こすようなエレメントをデジタル技術で採取して作品を作っています。ここ 10 年は水や流体というエレメントに着目し新しい未来へのイメージを模索しています。

世界的にもこの 10 年は加速度的にデジタル化が進み経済もグローバルした激動の 10 年でした。そしてそのスピードは以前衰えることなくますます加速しているように思えます。その反面その過激なまでの変化の中で人間を支えるうえでもっとも重要な精神は置き去りにされ希薄になりがちです。

ですが我々は後戻りするわけにもいきません。もと未来に突き進んで行かなくてはなりません。ますます希薄になっていくであろう精神や私たちを取り巻く環境の中に原始から流れ繋がる記憶やエネルギーをデジタルの中に取り込むことによって新しい形の精神の支えになるものを作り出せるか日々模索中です。

1994 年 東京芸術大学美術学部彫刻科 卒業

2009-2010 年小学館 3D アニメーション用 背景制作

2004-2009 年 SEGA ゲームムービー用 背景制作

2000-2003 年 ミュージックビデオ用 CG エフェクト多数

1999 年 eat 金沢大賞

1998 年 福島県立美術館 デジタルアート スプラッシュ展出展

1997 年 ソニー・アート・アーティスト・オーディション石井達也賞

1994 年 ソニー・アート・アーティスト・オーディション入選

E-mail: yutaka@myplanet.ne.jp

プレスリリース

サイエンスラボでのアート展

Searching for the Other Physics

IPMU アーツソサエティは、宇宙の謎解明を目指すサイエンスラボ IPMU にて、5人のアーティスト、深海文、三宅由梨、デイヴィッド・プライス、坪井あや、八巻豊によるグループ展を開催いたします。知の先端を日々開拓しているサイエンスラボにおけるオルタナティブなアートスペースで、若いアーティスト達が宇宙研究にインスパイアされ、サイエンスとアートの化学反応ともいえる現代美術作品を展示します。人間の世界認識や知の探求に関わるという面で、アートは科学と関心を共有しています。作品鑑賞を通じ、アーティスト、研究者、観客の豊かなコミュニケーションが始まることでしょう。今回特別限定公開となる、東京大学柏キャンパスでの貴重な異分野遭遇を是非体験してください。

スケジュール

2010.2.25(木) 2010.2.27(土)

11:00-19:00 料金無料

参加アーティスト: 深海文、三宅由梨、デイヴィッド・プライス、坪井あや、八巻豊
プレス: 熊谷薫

お問い合わせ: IPMU アーツソサエティ (代表: 坪井あや)

tel: 04-7136-5981 mail: a-tsuboi@kj.u-tokyo.ac.jp

url: <http://www.ipmu.jp/ja/arts-society>